

# 体操日本復活の金

## 男子団体 28年ぶり頂点に

【アテネ十六日共同】アテネ五輪第4日の十六日、体操の男子団体総合で日

本が優勝し、一九七六年モントリオール大会以来、二十八年ぶりとなる金メダ

ルを獲得した。モントリオールまで五輪5連覇の黄金時代を築いた日本はそ

の後、低迷が続いたが、7大会ぶりに五輪を制して「体操ニッポン」復活を果たした。日本は今大会3日連続の金で、5個目。金メダル数は早くも前回シドニー大会に並んだ。

日本は決勝の最初の床運動で7位と出遅れたが、徐々に追い上げ、5種目を終えてルーマニアに次いでわずかな差で2位。最後の鉄棒で米田功(徳洲会)鹿島丈博、富田洋之(ともにセントラルスポーツ)が高得点を連発して、劇的な逆転勝ちを演じた。2位は米国、3位はルーマニアだった。

日本は男子団体総合では3位だった九二年バルセロナ大会を最後にメダルからも遠ざかっていたが、一挙に世界の頂点まで盛り返した。



男子団体総合決勝 優勝した日本チーム米田の鉄棒Ⅱ屋内ホール(共同)